

留学体験（現地）レポート

山田一樹

私は中国へ留学して様々なものに出会いました。その中で、私が現地へ行き喜怒哀楽した観光地・食事等を写真などで紹介したいと思います。

まず、観光地では万里の長城、天安門、故宮、頤和園など多くの世界遺産に行きました。この中でも特に印象深かったのは頤和園です。頤和園は1750年に清朝第6代皇帝の乾隆帝が母の還暦を祝うために離宮として改造されたといわれています。総面積は290haでその四分の三が湖を占めています。そこを私たちは帰国2日前に行って来ました。頤和園に着くと、いろんな国の人がチケット売り場にいました。さすが世界遺産だなと思いました。入口を入るとすぐ見えるのが湖です。あたり一面が湖でした。とても広いです。湖の周りはドーナツ型になっていて、ウォーキングやランニングをしている人がいたり、ベンチに座っている人がいたり和やかな感じでした。しばらく進むと、十七孔橋が見えそこから写真を撮っている人がたくさんいました。そこから見た景色は絶景で感動しました。あと、北京動物園にも行きました。冬場だったので動物があまり多くいませんでしたが、パンダを見ることが出来ました。とても可愛かったです。他には西遊記に出てくる孫悟空のモデルにもなったとされる金糸猴や中国に生息するシフゾウ（シカ的一种）など日本ではめったに見ることの出来ない動物を見ることが出来ました。

食事では、食堂の食べ物から北京ダックまで幅広いものを食べてきました。中にはカエルやサナギなどのゲテモノ料理も食べました。結果やはり一番美味しく、印象深かったものは北京ダックでした。中国グループのみんなで北京ダックが美味しくいただける中華料理屋に行きました。円テーブルにみんなが座り、さまざまな具材とともに北京ダックも運ばれてきました。皮パリパリの北京ダックは本当においしかったです。あと、私は食堂で“麻辣燙”という美味しい食べ物に出会いました。それは籠の中に好きな具材を入れ（白菜、肉団子、キクラゲ、ラーメンなど）、そして5分ぐらい湯で、最後に“麻辣燙”スープをかけるというものでした。スープはとても濃厚で、日本では食べたことのない味でした。最高でした。このスープが食べられなくなるのはちょっと寂しいです。

最後に、食べ物や人間性から見て中国は日本と近いようで遠い国だと思いました。

